

日本語母語場面と日中接触場面における「断り」言語行動の一考察

－「察し合い」の談話展開とそこに見る配慮表現－

高揚（筑波大学大学院生）

1. はじめに

言語行動の中で、「断り」は「拒否」の行為タイプに属する発話行為として、Brown&Levinson（1987）のFTA（相手のフェイスを脅かす行為）に当たり、人間関係を損なう恐れがある言語行動である。そのため、断る側は断りの目的を達成する一方、依頼側との人間関係の維持に配慮をしなければならない。

また、依頼と断りのやりとりは一回だけで終わるとは限らず、断ったら再依頼される場合がしばしばある。このとき、互いに相手の知識状態や心理状態に配慮しながら「察し合い」の談話展開が行われる。そのため、「断り」は「高度な語用論的能力を必要とする言語行動」（堀田・堀江 2012）であり、特に「非母語話者にとって負担が大きい行為」（武田 1998）である。母語場面であっても断る際、その断りの複雑さや難しさをしばしば感じる。そのため、日本語学習者が接触場面でどうやって依頼側と察し合いながら断りの意思を表明するかがわからないことが想定される。

本研究は、多言語母語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）のロールプレイ 2（RP2－断り：アルバイト先でホール担当から調理担当に変わるように依頼され断る）のデータを使用し、「察し合い」の談話展開と配慮表現という側面から、日本語母語場面と日中接触場面の「断り」言語行動の相互行為のやりとりの特徴を解明することを目的とする。

2. 先行研究と研究課題

「断り」はBeebe 他（1990）以降、DCT で文レベルでの分析が多くなされてきたが、再依頼される場合はどう断るかという談話展開については未解決である。近年、談話レベルで母語場面での対照研究が進んでおり（施 2005, 2007；中垣 2014；吉田 2015, 2016；ハヤティ 2017）、日本語では「断り」の表現形式は画一的で、察しや遠慮によって依頼側はそれほど再依頼しない傾向が指摘されているのに対し、再依頼する言語も多く、そうした言語では再依頼の際に断り部は長くなるという見解で一致しているが、断りが完遂するまでの依頼側と断る側の交渉実態は観察されていない。加えて、日本語母語話者の接触場面での「断り」はデータとしても少ないため、接触場面での「依頼－断り」の相互行為のやりとりの特徴はまだ明らかになっていない。そこで、本研究では、日本語母語場面と日中接触場面の「断り」言語行動の相互行為のやりとりの特徴を明らかにするため、以下の研究課題を設ける。

- (1) 日本語母語場面（母語場面）と日中接触場面（接触場面）における「断り」言語行動の「察し合い」の談話はどう展開されるか。また、その談話展開にどのような配慮表現が見られるか。
- (2) 場面性質により「察し合い」の談話展開やそこに見られる配慮には違いがあるか。

3. 研究方法

3.1 対象データ

I-JAS（国立国語研究所 日本語教育研究・情報センター）の対話タスクのうち、日本語母語話者 JJJ01（男、24 歳、学生）と中上級中国の教室環境学習者 CCM40（女、22 歳、学生）の RP2 のデータを使用した。

3.2 分析の枠組み

日本語の会話では、話し手側は聞き手に自分の心理状態や知識状態を察してもらえるように「察しの仕向け」が頻繁に行われ、それに対して、聞き手側は話し手の心理状態や知識状態を察し、それにいち早く応じようとする「察しの返し」が連鎖し、「察し合い」の談話展開が成り立つ。日高（2012:91）では、「こうした『察し合い』の配慮言語行動は、談話展開やその構成要素にも現れる」と指摘されており、日本語の配慮言語行動を特徴づけるものと言える。

分析は日高（2012）で指摘された「察し合い」の談話展開の枠組みから行い、配慮表現「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられる言語表現」（山岡他 2010）を参考にしながら、「断り」言語行動における配慮は断り表現だけでなく、談話全体に盛り込まれると考え、談話の流れからの分析を図る。

4. 分析結果および考察

4.1 母語場面における「察し合い」の談話展開と配慮表現

断片(1)は母語場面における「依頼―断り」の会話である(I-JAS, RP2, JJJ01のデータより)。Cは依頼側で日本料理店の店長の役を演じる日本人の調査者であり、Kは断る側でホール担当の役を演じる調査協力者のJJJ01である。

断片(1) 【RP2のブレインテキストより抜粋(JJJ01)(下線は筆者が加筆)】

- 03C はい、えーとー、JJさんすいません、ちょっと今日はお願ひがあつて〈はい〉、来てもらつたんですけど、えと今、ホールの仕事、をや〈はい〉接客の方(ほう)をやつてもらつてますよね、でーえつとー実は、えーキッチンの人が、一人辞めてしまったのでー〈あー〉、あの一、そっちのヘルプをお願いしたいんですが、できますか？
- 04K えーとそうですね、僕は料理の方(ほう)が、苦手なん、でー〈えーえーえー〉、できればちょっとー {笑}
- 05C そうですかー
- 06K お断りしたい、**なんですけど
- 07C まあでもあの料理の方(ほう)は、あのマニュアルもあるしー、少しずつ覚えていってもらえれば、それでいいんですけどねー
- 08K えー、そうですねでも、まあ元々ー〈んー〉、その接客の仕事ー、やりたいなーと思って、あの一、ここのアルバイトも〈えー〉、応募してー、で今、その(連体詞)仕事にー、大分慣れてきて〈えー〉、結構常連さんお客さんと {笑} 〈あーあー〉、ちょっと {笑}
- 09C そっかそっか
- 10K お話したりしたとか〈はい〉、することもあつて〈あー〉、できたら、そっちの方(ほう)で、続けていきたいなーっていうふうに {笑}
- 11C そうかー {笑}
- 12K 思つてるんですよー
- 13C そうかー、んーそうですねーでもまあ、ねえ料理できるとー人生これから得ですけど {笑}、どうですか
- 14K {笑} そうですねー、んー、そう
- 15C やっぱりでも
- 16K でもやっぱり今ー〈んー〉、料理の方(ほう)にっていうとちょっとー {笑}
- 17C そっかー気が乗らない？
- 18K す、できればー {笑}、接客の方(ほう)続けてー、いきたいなーっていう
- 19C あーそーかー、わかつたじゃあ他(ほか)の人を当たってみることにしますね
- 20K すいません、お願いします
- 21C はい {笑}、わかりました、はいありがとうございます

4.1.1 「察しの仕向け」と配慮表現

依頼側Cの発話には、「ちょっと今日はお願ひがあつて〈はい〉、来てもらつたんですけど」(03C)、「ヘルプをお願いしたいんですが」(03C)などのような文末を断定的に言い切らない言いさしの表現が用いられているが、こうした表現は、相手への遠慮を示しつつ、相手にこちらの意向を察してもらえるように仕向ける機能を果たす。「実は」(03C)も何らかの持ちかけが行われることを予告的に暗示するものとして機能する。

一方、断る側Kは、「できれば」(04K、18K)、「できたら」(10K)、「ちょっとー」(04K、16K)のように、断りによって相手に生じる心理的負担を予想し、それを事前に軽減化する表現が用いられており、依頼に応じることができないことを暗示する。また、「んー、そう」(14K)という「否定的マーカー」は、「『断り』へ入る前のワンクッション」となり、相手に対する心配りを示すものとなる」(カノックワン1997:106)と同時に、相手にこちらの受け入れ難さを察してもらうように仕向ける機能を有する。こうした過程を経て、相手から否定的マーカーがあると断られることを予測でき、断られることを受け入れる準備ができる。

4.1.2 「察しの返し」と配慮表現

断りの意向を察したCは、Kの発話が終わらないうちに、相手の言ったことを理解したことを表す「そうですかー」(05C)、「そっかそっか」(09C)、「そうかー」(11C)というあいづちを行い、相手との関係が壊れないように配慮言語行動を行っている。また、断りの理由説明を受け入れた「そうかー、んーそうですねー」(13C)が、相手の状況を察知したことを示し、いち早く応じようとする「察しの返し」とみなすことができる。さらに、「察しの返し」と「察しの仕向け」の両方の役割を兼ねつつも心配りをする「やっぱりでも」(15C)、「気が乗らない？」(17C)という「心配り発話」(ザトラウスキー1993)に注目したい。これらは何回もやりとりを経てKの断りの意思を変える見通しがないとCが判断し、最後にKを断りやすくさせる配慮言語行動と言える。それを受け継ぎ、Kは「でもやっぱり今ー〈んー〉、料理の方(ほう)にっていうとちょっとー」(16K)と断りの話を行いやすくなる。

一方、断る側Kの関係修復の「察しの返し」の配慮言語行動としては、Cの依頼発話あるいはそれと関連のある「察しの仕向け」に対し、断りの意思があるにもかかわらず、矢継ぎ早には断りの意思を示さず、相手が言っていることに対する同感を表す「えーとそうですね」(04K)、「えー、そうですね」(08K)、「そうですねー」(14K)とワンクッションを置き、ひとまず関心を示してから断りの理由説明などを行う。

4.2 接触場面における「察し合い」の談話展開と配慮表現

断片(2)は接触場面における「依頼-断り」の会話である (I-JAS, RP2, CCM40 のデータより)。同じく C は依頼側で日本料理店の店長の役を演じる日本人の調査者であり, K は断る側でホール担当の役を演じる調査協力者の CCM40 である。

断片(2) 【RP2 のプレインテキストより抜粋 (CCM40) (下線は筆者が加筆)】

- 03C はい、あ CM さーん
04K はい
05C あーほんとに君はよくやってくれて助かってるよ
06K はい、ありがとうございます
07C いや実は一つお願いがあるんだけどねー、調理場にいたカクさんが、〈はい〉お母さんがどうも病気でしくて〈はい〉、昨日からちょっと一国へ帰ってるんだよねー古里に〈はい〉、アンキ (地名「安徽省」) 省に〈あーはい〉それで、ちょっとね、料理をやる人が一人足りなくなってるんで君、なかなか料理上手そうなので、え是非ね、調理場の方に代わってくれないかな
08K あーて、あーそれはちょっと、あの一料理は上手ではない、ないかーあの、日本語の会話を練習する機会も、あーほしいですけど、それは、ちょっと無理かもしれ、ませんね
09C あでも調理場にね、あの一田中君って言う (ゆう) ーアルバイトの学生も日本人もいるから、あのみ調理場で、日本語を使うこともできるし、あの料理が下手でも、あの料理長が上手に、あの教えてくれるから、気にすることはないよ
10K あのほんとにできないんです、あの、あ、あの料理を作ったことがあります、あの友達は、とっても (とても) まずいと言って、いと言いましたあのその (連体詞) 仕事は私に、向いていない、と思います
11C {笑} そんなにまずいのかな
12K はい {笑}
13C そうか、それはちょっと困るな、でも、ちょっとずつ、習ったらできるんじゃないかと思うんだけど、ま最初はね、すぐ料理作らなくても、さあの野菜を洗ったりとか、あのなん下ごしらえ? 準備? すれぱいいんだけどな、どうかな
14K あの、それは、店の営業に、何 (なに) か悪い影響もある、かもしれませんね 〈え、うん〉あの、それは私にとって、できないことと言ってもいいかもしれないですね {笑}
15C おーそうかな、それほどやっぱ嫌かな
16K はい {笑} すいません
17C そう、そうかまあそこまで嫌だったらじゃあしょうがないな、他 (ほか) の人にあたってみようかな
18K はい
19C はい、わかりました
20K すいません、ほんとにすいません
21C はいどうも

4.2.1 「察しの仕向け」と配慮表現

依頼側 C の発話には、「一つお願いがあるんだけどねー」(07C)、「すれぱいいんだけどなー」(13C) のような言いさし表現、「実は」(07C) という副詞が用いられており、何らかの持ちかけが行われることを予告的に暗示するものとして機能する。また、「それはちょっと困るな」(13C) という発話は、一見独話的な話のように見えるが、呟くことにより、相手に自分の困っている状態を察してもらえるように仕向けることができる。また、「下ごしらえ? 準備? すれぱいいんだけどな、どうかな」(13C) と疑問形で相手の意向を考慮しながら依頼の仕向けを工夫しており、「断り」の選択における相手の負担を軽減する効果があるといえよう (李 2010:120) から、一種の配慮表現と言える。「どうかな (あ)」(13C) は、三牧 (2000:44) によれば、「相手に直接向けずに独話風に発話することによって、FTA を補償していると思われる用法」であるが、本稿で扱った接触場面会話のデータでも確認ができた。「え是非ね、調理場の方に代わってくれないかな」(07C) という否定疑問文の形式で意向を尋ねながら依頼することで、「相手に断り」を選択する余裕を与えている (李 2010:124) という配慮が見られ、「是非」は「ぜひ代わってください」のように自己の利益をより大きなものとして表すことにより相手の積極的なフェイスに考慮し、「代わる」という依頼行為に伴う FTA を軽減している (牧原 2017)。

一方、断る側である K は、「あーて、あーそれはちょっと」(08K) という省略表現が用いられており、C の依頼を応じることができないことを婉曲的に暗示している。また、「それは、ちょっと無理かもしれ、ませんね」(08K) における「ちょっと」は、「本来は程度が小さいことを表す程度副詞であるが、本来の程度副詞としての意味が希薄となり、主に対人配慮の機能を果たす成分として用いられることが多い」と牧原 (2017:151) が指摘されているように、FTA を和らげる配慮表現である。それに、「無理」とははっきり言わずに、「無理かもしれません」という緩和させる方略を用いることは相手に断りの意図を伝えるソフトな表現形式となり、より高い待遇の配慮を表すと考えられる。

4.2.2 「察しの返し」と配慮表現

断りの意向を察した依頼側 C は、「おーそうかな、それほどやっぱ嫌かな」(15C) という発話を行い、相手の理由説明に理解を示しつつ、その断りの意向に沿った「察しの返し」の応答をする。同時に、それは K を断りやすくさせる「察しの仕向け」の配慮言語行動と言える。K はそれを受け継ぎ、「はい {笑} すいません」(16K) と簡潔に断りの話を済ませる。しかし、CCM の断る側 K の話においては、JJJ の断る側 K の発話における「えーとそうですね」(04K)、「えー、そうですね」(080K)、「そうですねー」(14K) のようにワンクッションを置き、ひとまず共感や関心を表す「察しの返し」の発話が見当たらなかった。

5. おわりに

本研究では、I-JAS-RP2 のデータを使用し、日本語母語場面と日中接触場面の「断り」における「察し合い」の談話展開と配慮表現を考察し、以下の点が明らかになった。

- ① 母語場面・接触場面ともに「察しの仕向け」と「察しの返し」を兼ねた「察し合い」の談話が展開し、聴者への配慮として、言いさし表現、あいづち表現、それに「んー、そう」というような「断り」へ入る前のワンクッションとなり、相手に対する心配りを示す「否定的マーカー」などの配慮表現が見られた。
- ② 母語場面では、日本語母語話者の間で「察しの仕向け」と「察しに返し」が連鎖し、つまり「察し合い」の談話展開が頻繁に行われたのに対し、日本語母語話者と中国人日本語学習者の接触場面では、「察し合い」の談話展開があまり行われていなかった。
- ③ 接触場面では、母語話者は和語を漢語に替えるストラテジーを使用して学習者に配慮を示したが、学習者では母語話者が頻繁に使われる「察しの返し」の表現は見当たらなかった。

本研究から、日本語学習者は言語から出発しターゲットとなる語彙や文型をもとに取り組むだけではなく、具体的な状況におけるコミュニケーションのやりとりにも盛り込まれる「察し合い」の談話展開と配慮表現に関する知識を身に付けて、活用すべくことを主張する。

謝辞 本研究は中国国家留学基金委の奨学金によるものである。ここに記して感謝する。

参考文献

- Beebe, Leslie M., T. Takahashi and R. Uliss-Weltz (1990). Pragmatic transfer in ESL Refusal. In R. Scarcella, E. Anderson and S. Krashen (eds.) *Developing communicative competence in a second language*. Newbury House, 55-73.
- Brown, P. and Levinson, S. (1987). *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- カノックワン ラオハブナキット (1997). 日本語学習者に見られる「断り」の表現—日本語母語話者と比べて 世界の日本語教育, 7, 97-112.
- 日高水穂 (2012). 「察し合い」の談話展開に見られる日本語の配慮言語行動 三宅和子・野田尚史・生越直樹 (編) 「配慮」はどのように示されるか ひつじ書房 pp. 91-112.
- 堀田智子・堀江薫 (2012). 日本語学習者の『断り』行動におけるヘッジの考察—中間言語語用論分析を通して 語用論研究, 14, 1-19.
- 李錦淑 (2010). 「誘い」とそれに対する「断り」の言語行動について—日本語母語話者同士による携帯メール会話の分析から 待遇コミュニケーション研究, 7, 113-128.
- 牧原功 (2017). 丁寧さと関わる文法—配慮という観点から文法を見なおす 江田すみれ・堀恵子 (編) 習ったはずなのに使えない文法 くろしお出版 pp. 65-92.
- 三牧陽子 (2000). 丁寧体基調の談話にみる独話的発話・直接引用・心情も直接表出—「働きかけ方式」ポライトネス・ストラテジーとして 多文化社会と留学生交流, 4, 37-53.
- 中垣友江 (2014). 日本語とスワヒリ語における『勧誘』会話の対照研究—昼ごはんの『勧誘の断り』の会話から 日本語・日本文化研究, 24, 170-185.
- ノフィア ハヤティ (2017). 日本語とスンダ語における『断り』談話とそれに対する反応—予備調査結果の分析に基づいて 金沢大学人間社会学部経済学類社会言語学演習『論文集』, 12, 55-68.
- 施信余 (2005). 依頼に対する『断り』の言語行動について—日本人と台湾人の大学生の比較 早稲田大学日本語教育研究, 6, 45-61.
- 施信余 (2007). 『待遇コミュニケーション』における『依頼』に対する『断り』の研究：日台の言語行動の比較を中心に 早稲田大学大学院日本語教育研究科博士論文
- 武田加奈子 (1998). 接触場面の断り行動についてのケース・スタディ 語文論叢, 26, 79-94.
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010). コミュニケーションと配慮表現—日本語語用論入門 明治書院
- 吉田好美 (2015). 勧誘に対する断りの研究—日本語母語話者とマナド語母語話者の比較 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士論文
- 吉田好美 (2016). 再勧誘後における断り発話の出現について—日本人女子学生とインドネシア人女子学生の比較 比較文化研究, 124, 263-272.
- ザトラウスキー ポリー (1993). 日本語の談話の分析—勧誘のストラテジーの考察 くろしお出版